

【はじめに】

この度はこのような機会をいただき、日本サイトメトリー学会関係者の皆様に心より感謝申し上げます。

私は、2013 年に血液部門へ配属となり、臨床検査技師として日々業務を行っています。当院は、血液内科を擁する総合病院であり、血液・凝固検査の検体検査をはじめ、染色体・遺伝子解析、造血器腫瘍表現型解析やリンパ球サブセット検査、移植に伴う CD34 陽性細胞数の測定を行っています。骨髓像を評価する際、形態学的検査だけで判断することは困難であり、迅速な診断補助としてフローサイトメトリー検査は必要不可欠です。その一方で、解析者の知識や経験が不十分である場合、誤った解析や異常所見を見逃す可能性がある検査でもあります。当検査室には、サイトメトリー技術者認定資格者がいないこともあり、自分自身の知識を増やし、理解を深め、より正確な解析技術を身につける必要があると感じたことから、認定試験を受験することになりました。

【試験対策】

①「スタンダードフローサイトメトリー 第2版」(医歯薬出版)

ソーティングやDNA解析は、実際に携わる機会がなかったため、理解するまで時間がかかりましたが、フローサイトメトリーの基礎から応用まで学ぶことができ、繰り返し読みました。また、自分が特に興味のある臨床の分野は、スタンダードだけではなくフローサイトメトリー関連の論文を読み、日常業務へ活かせる知識の習得に努めました。

②「Medical Technology 誌 Vol 32 チャレンジ認定試験」

どのような問題なのか、何が重要なのか、自分の実力を確認するために、まず全問解いてみました。あまりの出来なさに、焦りと同時にさらにやる気ができました。参考書を一通り読み終わった後、問題を繰り返し解き、解説や関連する内容も書き出しながら、理解を深めました。

③「筆記試験到達目標」

あらかじめ自分の言葉で説明文を作成し、全ての項目で説明文が書き出せるようになるまで勉強しました。

【技術講習会と試験】

技術講習会は、8:45~15:00 まで開催されました。講義は、スタンダードの内容を中心に構成されており、先生方が非常に分かりやすく説明してくださるため、整理しながら理解を深めることができました。また、講義中には試験で重要となるポイントも多く説明されるので、一言一句聞き漏らさないつもりで集中して受講されることをお勧めします。休憩時間は短く、講習会資料をゆっくり見返す時間がないため、試験直前に見返したいページに付箋を貼りながら、講習会を受けました。

試験は、15:30 から 80 分間、50 問選択問題で図を用いた問題もありました。講義中の重要ポイントやスタンダードの内容まで、幅広く出題されました。一方で、スタンダードだけでは対応が難しい問題もあり、各メーカーの資料や他の参考書なども活用して、より広範囲に勉強しておけば良かったなと少し後悔しました。当日は丸 1 日頭をフル回転させてとても疲れました。講習会から試験まで全力で臨めるように、前日はしっかりと睡眠をとり、体調万全で挑んでください。

【最後に】

今回、試験に合格できたことで、フローサイトメトリー検査に対し自信をもつことができました。今後も勉強を継続していき、臨床へ貢献していきたいと思います。この体験記がこれから受験しようと考えている方々の参考になれば幸いです。